

事業所名

カンガルー療育支援室横浜北部ステーション

支援プログラム

作成日

2026年

3月

1日

法人（事業所）理念		「保護者と共に、いきいきとした子どもの豊かな未来を育む」を理念に掲げ、子どもたち一人ひとりをしっかりと受け止めた温かい療育を行い、子どもたちの成長を保護者と共に喜び、分かち合う						
支援方針		1. 当施設は良質な水準かつ適切な内容の療育サービスの提供を行うことにより、すべての子どもたちが健やかに成長することを目指します 2. 重症心身障害児、医療的ケアの必要なお子様を積極的に受け入れます。経験豊富な職員が専門性と役割を持ち、協力しながらお子様に最適な支援を提供します 3. 子どもたちのご家族及び、各種関係機関（学校、自治体、療育センター、主治医等）との連携に努めてまいります						
営業時間		9時	30分から	17時	30分まで	送迎実施の有無	あり	
支援内容・留意事項・支援者の配慮								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 表情や機嫌、家族からの情報、バイタルサインなどからその日の体調を把握し、体調に合わせた適切なケアを提供する 衣服や室温の調節、換気、消毒を丁寧に行い、病気や感染の予防に努める 表情や動き、機嫌等細やかに観察して、体調に合わせた活動を提供する 1日の流れの予測ができる力を伸ばすために、登園→朝の会→活動→リラックス→降園という生活のリズムを一定にする 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 心地良い疲れと満足感が味わえるように援助する 好きな遊びや活動を満足できるまで楽しめる時間を提供する 製作、感触遊び、散歩、食体験など、じっくりと活動できる場を設定する中で、聴覚、触覚、嗅覚などの感覚を十分に活用できるよう意識して支援する 感触遊び（光・音・揺れなど）を体験できる機会を設ける 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 支援者が準備した様々な遊びや活動・季節の行事に積極的に参加してみる 季節感のある活動や行事など、幅広く体験できる機会を設けることで個々の経験値を上げ、興味関心の対象を増やしていく 様々な活動や生活を通して、友達や支援者の存在に気づき、関心を向けるようになる 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや気持ちを少しずつ感じ、理解できるように、活動や遊びの状況をわかりやすい言葉で繰り返し伝える 本人の気持ち（反応）を見逃さないように、丁寧な関わりを継続する 自分の思いや求める支援を、表情、手足の動きや声などの手段で伝えられる喜びを感じられるように、丁寧な関わりを継続する 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気の中で支援者や友達と関わる機会を持ち、積み重ねていく ゲームや体操など、みんなで楽しい雰囲気が味わえる活動を経験する 本人の訴え・表出をしっかりと受け止め、理解してもらったという経験を重ねることで自己肯定感と信頼関係が育つようにする 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 送迎時の報告や・連絡帳などから本人の情報を細やかに共有し、必要に応じて、相談できる機会を設ける 家族ぐるみで参加できるイベントの機会を設ける 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ライフステージの変化を視野に入れ、必要時、関連機関（療育センター・支援学校・相談機関など）と連携を図る 事業所以外での生活や育ちの場の充実に向けた取組みを意識して地域とつながる 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 地域とつながりながら日常生活を送れるように、図書館、公園などの公共施設に出かけたり、地域のお祭りやイベントに参加したりする 地域の子育て支援施設（都筑区子育て支援センター（Popola）・つづき活動ホームくさぶえ・あゆみ荘など）に出かける 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加（横浜市医療的ケア児者等支援者養成研修・自立支援協議会主催研修など）、内部研修の実施（摂食嚥下・姿勢と骨折など）を通して研鑽する 	
主な行事等		お花見・親子リトミック・七夕・夏祭り・水遊び・プール・スイカ割り・遠足（児発）・ハロウィン・クリスマス会・書初め・節分・ひな祭り・お別れ会など						